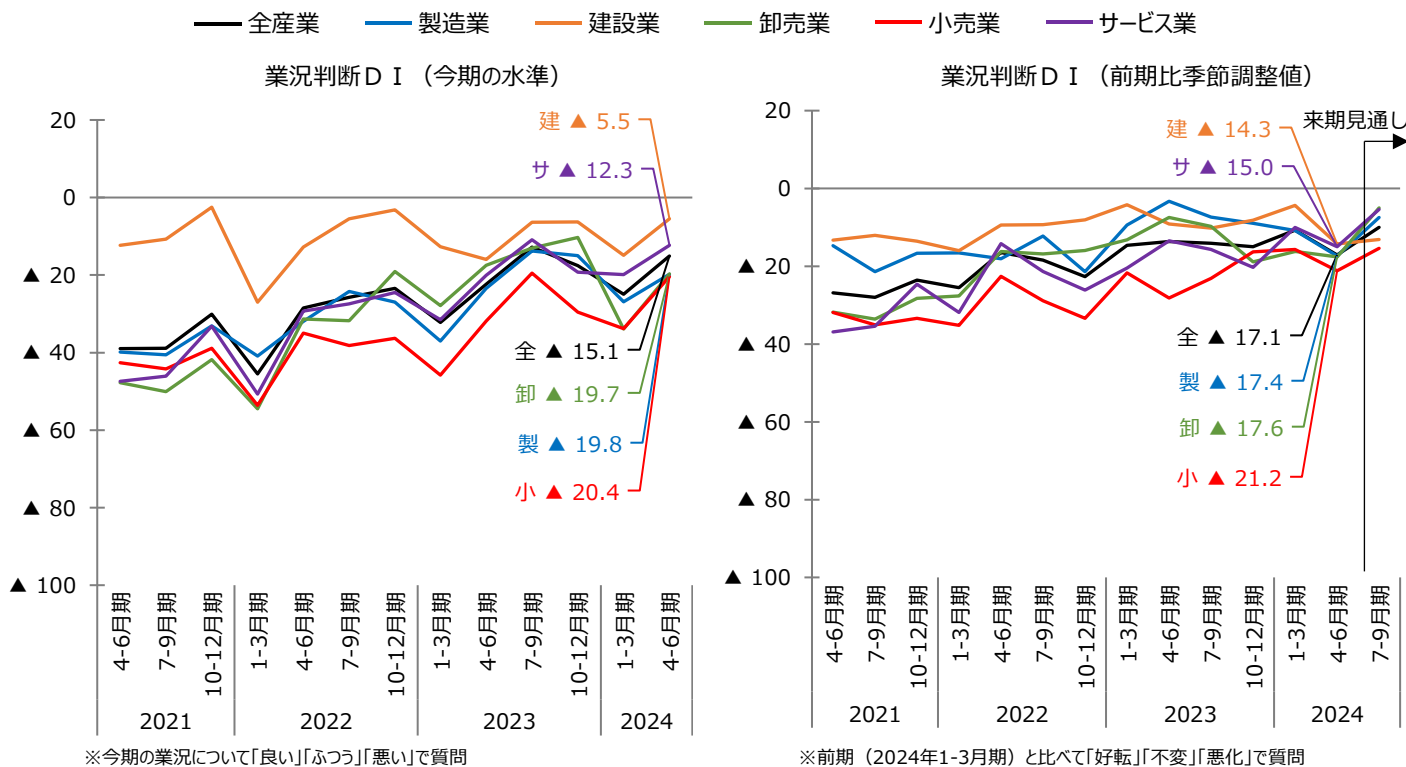


第176回 中小企業景況調査（2024年4-6月期） 北海道



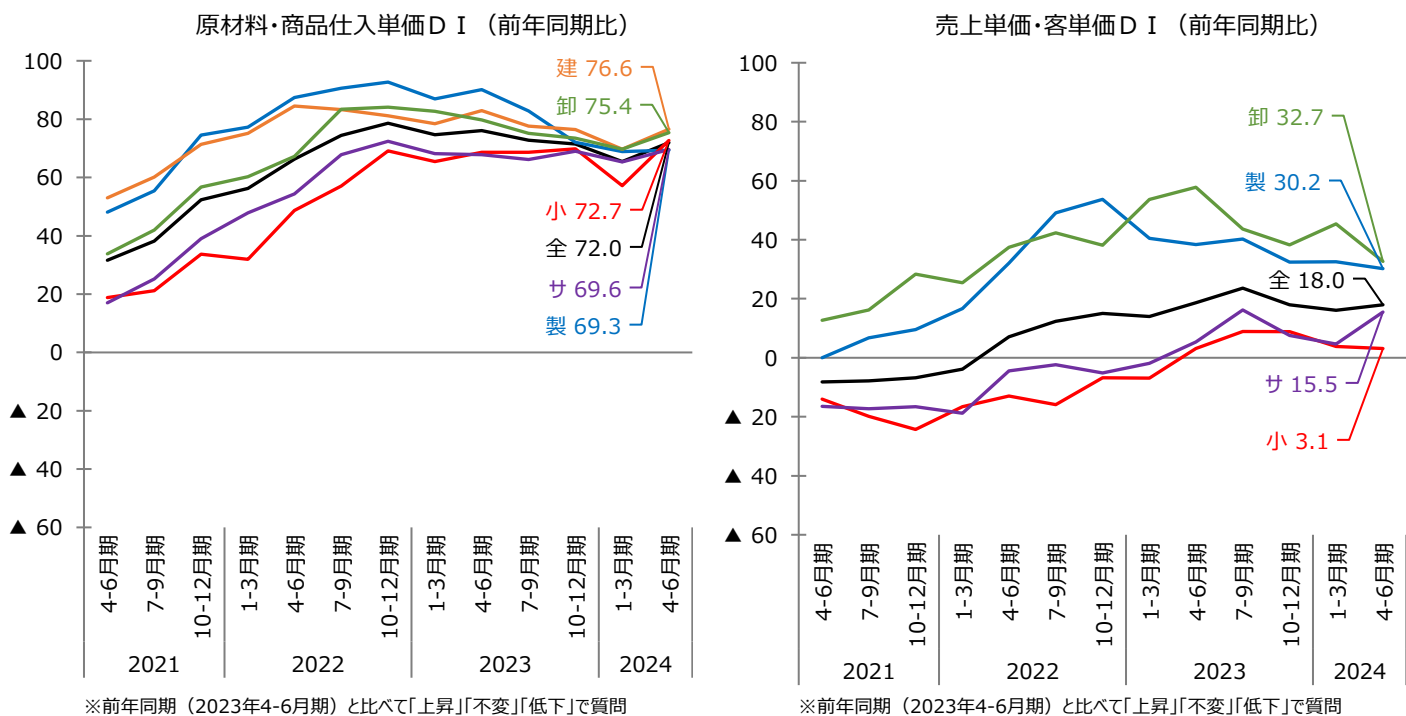
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年1-3月期）より9.8ポイント増の▲15.1と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より6.5ポイント増の72.0と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.9ポイント増の18.0と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業で上昇し、卸売業、製造業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

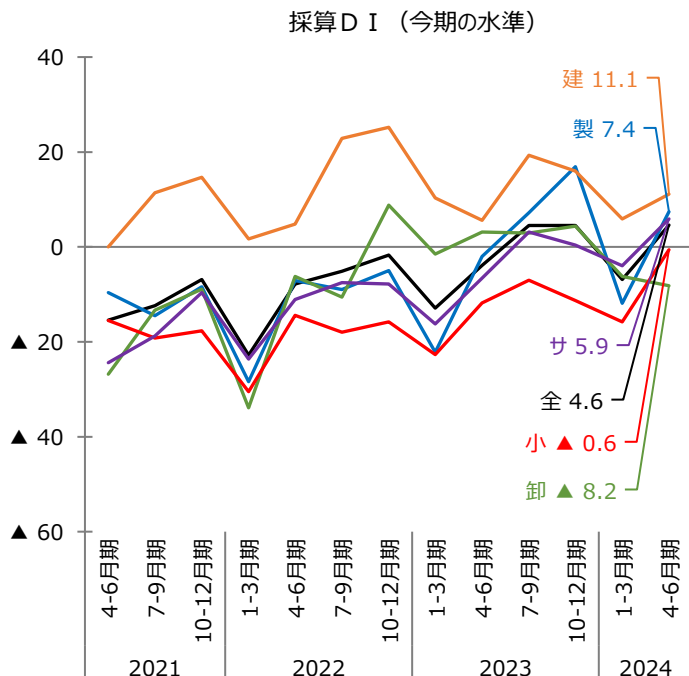
今期の調査対象企業数：18,840 有効回答企業数：17,959 有効回答率：95.3% うち、北海道：735企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第176回 中小企業景況調査（2024年4-6月期） 北海道

3. 採算

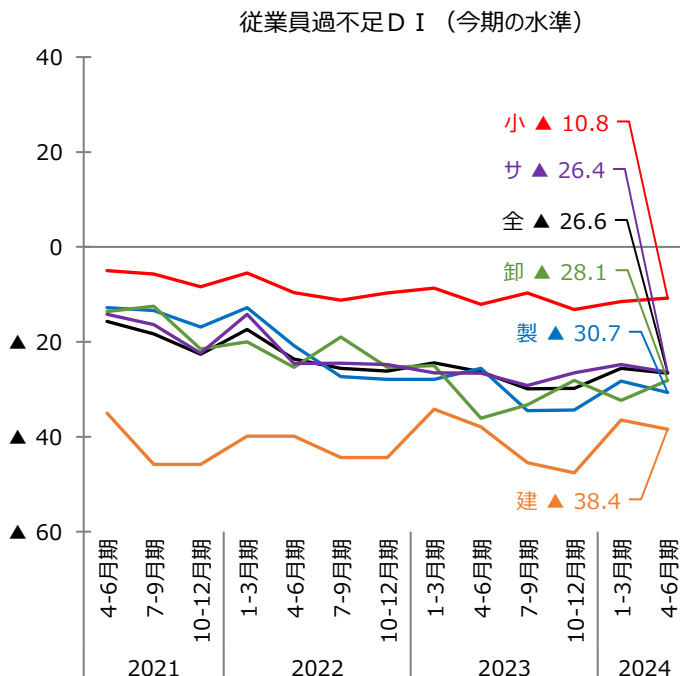
採算DIは、全産業で前期より11.5ポイント増の4.6と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、小売業、サービス業、建設業で上昇し、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の▲26.6と3期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、製造業、建設業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 北海道の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	高付加価値を求めるニーズの引合は好調だが、変化の少ない従来品（レポート品）の受注は低調気味です。自社も含め、付加価値向上の必要性を感じます。	製造業 紙器製造業
	今年は去年の猛暑により、空調工事が多く発注され、売上こそ前年を上回る見込みだが、2024年問題もあり、下請け業者の確保という問題も発生している。	建設業 一般管工事業
	該当なし	卸売業
	冷蔵機器の入替に踏み切ったものの、それに見合った結果が得られるか不安が募る。加えて2024年問題の影響で既に売り逃がしが発生した。更にコストが上がれば、商品への価格転嫁は避けられず、厳しい状況が続く。	小売業 各種食品小売業
	各地のイベントが復活し、コロナ前の水準に戻った感がある。また、補助金やコロナ融資で導入した設備の稼働率も上がり、順調に売上規模が伸びている。様々な物がインフレしているが自社製品の値上げで対応できている。	サービス業 その他の専門料理店
見通し	売上の基本となっているレザーの販売が少なくなってしまった。原因は本州でレザーが売れないため。今まで会社向けに原材料として出荷することが多かったが客層を個人に向けて売上も目指す。	製造業 毛皮製造業
	賃上げも実施はするが、経費の増加（機械購入費・資材・燃料等）でなかなか明るい景況は見通せない。	建設業 一般土木建築工事業
	該当なし	卸売業
	従業員不足が深刻であり、通常営業が難しい状況にある。ニセコ地域の特殊環境の影響が大きい。今後、現状より良くなる事は考えられず、人材をどう確保していくかが課題。	小売業 コンビニエンスストア（飲食品を中心とするものに限る）
	現在はまだ問題ないが、若年者の採用が厳しさを増しており、この先不安を感じる。各種材料等の価格がまだ上昇しており、売上げ価格に反映出来なければ厳しくなってくる。	サービス業 自動車一般整備業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。